

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590300038		
法人名	(株)VAN		
事業所名	海の見えるグループホームしおさい		
所在地	山口県山口市秋穂西3317-1		
自己評価作成日	令和1年11月30日	評価結果市町受理日	令和4年10月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	令和 1 年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くに大きな山や河川のない平野の海沿いにあります。建物南側には広い庭とそれに続く車海老の養殖池があり、その先には、秋穂湾が広がります。天気の良い日は、朝から日没まで太陽光を浴びての体操、散歩が出来ます。養殖池は台風等の災害時には防波堤になります。建物の北側玄関側花壇には職員により四季花が絶えません。通常のレクリエーションは、昼食前、おやつ前、夕食前に「ラジオ体操(1)、(2)、歌唱」を基本としており、歌唱では現在216曲のピアノ生伴奏が可能で、FDに入っているので演奏者不在でも大丈夫です。毎週(日)には、ドライブを行うようにしており、あちこちの桜、菜の花、コスモス、紅葉鑑賞や蕨採り、栗拾い、渋柿もぎ、熟柿攪りなどを楽しめるようにしています。毎年10月には「しおさい祭」を地区老人会の方々の協力を得て開催し御家族も楽しみにしておられます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の希望や体調に沿って、短時間でも戸外に出かける機会を大切に支援しておられ、毎週日曜日には、利用者と職員と一緒に周辺の花見や初詣、どんど焼きに出かけられたり、職員宅での柿もぎ、栗拾い、蕨の収穫などを楽しまれている他、日常の生活の中で関わりの深い郵便局や市役所等にも一緒に出かけるなど、本人の希望やその時々状況に応じて、一人ひとりが外出を楽しめる支援に取り組まれています。利用者がゆっくり、ゆったりと自分のペースで生活できるように思いや意向の把握に努められ、職員間で共有されて、ピアノの生演奏で歌を歌ったり、ラジオ体操やレクリエーションを楽しまれるなど、利用者一人ひとりのできることを活かされ、活躍できる場面づくりをされて、張り合いや歓びのある日々が過ごせるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「理念を短く」という課題は残ったままだが、「思い」は共有出来ているよう。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所の理念をつくり、事業所内に掲示している。月1回の月例会議で理念について話し合い、職員間で共有し、実践につなげるよう取り組んでいる。開設当初に作成した理念をわかりやすく、家族や職員が理解しやすいように、月例会議で検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設長は幾らか関わりがあるが、他職員はそうでもない。	自治会に加入し、管理者は総会に出席している。自治会の溝掃除には職員が参加している。御大師さま参りや地域の神社の秋祭り、交流センターの福祉祭りに利用者と職員が一緒に出かけている。ボランティア(歌、楽器演奏、笑いヨガ)の来訪がある。事業所行事の「しおさいまつり」には地域の老人会やキッチンカーの協力を得て、利用者や家族、地域の人など、多くの参加者があり、ふれあいを楽しんでいる。地域の人からの西瓜などの差し入れがある他、商店や郵便局などに出かけた時や散歩時などで地域の人と挨拶を交わしているなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域防災のメンバーではあるが、運営推進会議での関係に限られる。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	重度化対応で一杯になっている。	管理者は、評価の意義について職員に説明し、全職員に自己評価をするための書類を配布して記入してもらい、職員と話し合い、管理者がまとめている。前回の評価結果を受けて、全職員が評価に取り組み、項目の理解に努めると共に、ケアの振り返りをして、日常のケアのステップアップに取り組んでいるなど、具体的改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地区の情報で入居者と出掛けたり、介護保険からの情報を得る。</p>	<p>会議は年6回開催し、うち2回は拠点施設(デイサービス)と合同で実施している。民生委員や地域社会福祉協議会会長、派出所、山口南消防署、秋穂消防署、高齢者支援係等の参加を得て、近況報告、研修報告、地域行事予定、事故、ヒヤリハット等について報告し、意見交換をしている。事故報告だけでなく、ヒヤリハットの報告の必要性、内部研修の講師の紹介などの意見があり、サービス向上に活かしている。年6回、身体拘束廃止委員会を開催している。</p>	<p>・家族参加の工夫</p>
6	(5)	<p>○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センター、地域福祉課、社会福祉協議会とは、普段から行き来がある。</p>	<p>市担当者とは運営推進会議時の他、電話や防災メール、直接出向いて、介護保険の更新申請や事故報告時などの助言を得たり、情報交換をして協力関係を築いている。生活保護受給者や成年後見人制度の利用者もあり、福祉担当課とも協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時の他、電話や直接出向いて、利用者状況等の情報交換をすすしているなど、連携を図っている。</p>	
7	(6)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>「指針」に従い、努めている。</p>	<p>「身体拘束等の適正化のための指針」に基づき、職員は内部研修で身体拘束について学び、各ユニットの月1回の定例会議で管理者と職員で話し合っている他、外部講師による「認知症を理解し、認知症の方にとって心地よい環境を作るために」というテーマで学んでいる。事業所の入口は施錠しているが、外出したい利用者があれば、職員が一緒に出かけている。身体拘束廃止委員会を年6回、運営推進会議に合わせて開催している。</p>	
8		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>「指針」に従い、努めている。が、昨夏「虐待通報」があり、職員への聞き取り調査。研修や話し合いを重ねている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護、権利擁護制度を利用している入居者があり、他の入居者の御家族から情報提供を希望される事がある。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長が一括して対応している。職員へも質問があり、詳しくは施設長が対応している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設長が一括して対応している。職員へも質問があり、詳しくは施設長が対応している。	契約時に重要事項説明書に基づいて、相談や苦情の受付体制、処理手続きについて家族に説明している。面会時や運営推進会議時、行事参加時に直接家族から聞いたり、ケアプラン作成時や2ヶ月毎の事業所だより送付時、電話等で意見や要望を聞くようにしている。市社会福祉協議会の介護相談員の来訪が年1回あり、利用者の思いや意見を聞いている。家族からインフルエンザ流行時に妊娠中の家族が面会に来訪し、面会を中止したことがあり、早目に家族に連絡して欲しいとの要望があり、話し合いをして対応している他、ケアについての要望には、その都度対応しているなど、反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務表は組むのが難しい程に、皆さんの「休」希望日がある。	管理者は月1回の月例会議や毎週月曜の昼食時の社長ミーティング時、毎朝の申し送り時、日常業務の中で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。職員の勤務変更や希望休などの他、利用者に応じた椅子、ベッドの高さの変更等の提案を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「処遇改善加算 I (11.1%)」を取得してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ここに届いた研修案内は全員に回覧している。隔月で全員研修を行っている。11/22には外部講師を招いての研修を行った。	外部研修の研修案内を全職員に回覧している。今年度はノロウィルスの研修を管理者が受講している。受講後は全体会議時に復命し、資料はコピーして共有している。内部研修は、年間計画を作成して、2ヶ月に1回、外部講師や管理者が講師となり、認知症の理解、気持ち良いおむつ交換、身体拘束禁止及び虐待防止などについて実施している。新人研修は日常業務の中で管理者の指導の下、働きながら学べる様に支援している。	・外部研修参加の機会の確保
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	現在のケアマネからと、入居を考えておられる時と、決まってからは折りに触れて、じっくり聴くように、しています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在のケアマネからと、入居を考えておられる時と、決まってからは折りに触れて、じっくり聴くように、しています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在のケアマネからと、入居を考えておられる時と、決まってからは折りに触れて、じっくり聴くように、しています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	住み易くなるように努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当職員は特に関係を作るようにし、相談をしたり受けたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や友人との外出がある。	家族の面会や親戚の人、近所の人、友人、元の職場の同僚の来訪がある他、電話の取り次ぎや年賀状での交流を支援している。昔の自宅周辺や昔の職場周辺のドライブ、馴染みの店での買い物、夕食などの他、家族の協力を得ての馴染みの美容院の利用、外食、外泊、一時帰宅、墓参り、法事への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの団らん・レクリエーションを行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。退居後の入院先からの相談がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員は特に関係を作るようにしている。	入居時のアセスメント表(家族や利用者から聞いた意向や要望、職歴、趣味、家族構成等)を活用している他、日々の関りの中での利用者の行動や言葉などを介護記録に記録してカンファレンスで話し合い、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。誕生日には好きな物を食べに行く、お酒を飲む、行きたい所へ行けるようにと、一人ひとりの暮らし方の希望や思いの把握に努め、支援に取り組んでいる。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生い立ちの把握を重視し、「その後の認知症」という理解を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設側は、施設長・ケアマネ・計画作成担当・入居者担当・職員というメンバーでの介護計画としている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に、月1回のミーティング時にカンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医からの医療情報を参考にして話し合い、介護計画を作成している。月1回、モニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直しをしている。利用者の状態の変化や要望に応じて見直しをしているが、現状に即した介護計画を作成するためのモニタリング方法について、職員間の共有が不十分である。	・モニタリングの工夫
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のユニット会議で行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関の受診介助、店舗での買い物など。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週(日)の近所ドライブが楽しみになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を活用。入居前の続きの方もおられる。	事業所の協力医療機関をかかりつけ医とする場合は、月2回の訪問診療がある他、精神科や歯科の受診は事業所が支援をしている。それ以外の他科受診は家族の協力を得て支援している。受診時には情報を提供をしている。訪問診療後は訪問記録を受け取り、後日、訪問診療提供書の提供がある。受診結果は業務連絡表や電話用業務帳に記録して、職員間で共有している。必要に応じて家族に電話や面会時に報告している。緊急時や夜間時には看護師や協力医療機関と連携して、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制ですので、良く相談しています。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院の地域連携室へは、定期的に訪問している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	毎月のユニット会議からの課題を御家族へ報告・相談しています。	契約時に重度化した場合に事業所のできる対応について家族に説明し、同意を得ている。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を聞き、主治医や看護師と医療機関や他施設への移設などを含めて話し合い、方針を決めて共有して支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	救急救命の研修を受けた職員や訪問看護への相談で対応している。	事例が発生した場合は「事故報告書」にその日の職員間で話し合い、日時、場所、発生状況、対応策を記録して回覧し、共有している。月1回のミーティング時に再検討をして再発防止に取り組んでいる。事故発生時に備えて看護師が緊急時の対応について指導をしている他、緊急時対応は管理者が観察し初期消毒などの対応をしている。全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の充実
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域防災への参加と、消防計画での災害時の対応を、ユニット会議毎に学んでいる。	年2回、昼夜想定火災時の避難訓練を実施している。1回は消防署の協力を得て利用者と職員で避難訓練、消火訓練、友邦訓練、避難経路の確認をしている。1回は事業所独自での避難、消火訓練を実施し、運営推進会議時に報告をしている。管理者は年1回地域防災会議に出席し、火災時の避難方法や避難経路の確認、非常食の試食をしている他、連絡網の確認をしているなど、地域との協力体制を構築している。災害(水害、地震など)時には、事業所は避難所として地域の人の受け入れについても想定し、話し合っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	行っている	内部研修で個人情報や倫理規定、プライバシーについて学び、利用者の誇りやプライバシーを損ねない、さりげない言葉かけや対応をしている。不適切な対応や言葉かけがあれば管理者が注意している。個人記録の保管や取り扱いに留意すると共に、守秘義務についても遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生祝いには、御本人の希望または希望されるであろう品物や場所、外食などを取り入れて行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望、またはそうでありたいと思われるだろう事で過ごして頂けるようにしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持ち込まれた服から遠くないように、またはもう少し明るくしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食器洗い、お盆拭きなどを、出来る方をお願いしている。	朝食と金曜日の昼食は事業所で調理している。昼食と夕食の副食は給食サービスを利用している。ご飯、汁物は事業所でつくっている。利用者は下ごしらえや台拭き、盆拭き、お茶パック詰め、食器洗い、盛り付けなど、できることを職員と一緒にしている。食事中はピアノの演奏音楽を流している。おやつづくり(ホットケーキ、ヨーグルトなど)、誕生日の夕食(うどん、寿司など)、季節の行事食(お節、節句のちらし寿し、クリスマスケーキ、七草粥など)、季節ごとに柿もぎや栗拾い、竹の子掘り、蒨取りに出かけて、干し柿をつくっている他、家族の協力を得ての夕食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の体調も考慮して、支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洩れずに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	行っている。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握して、一人ひとりに応じた言葉かけや誘導の工夫をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト、牛乳、体操、マッサージなど服薬以外の方法を活用している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1週間に3回の入浴を目安にしている。が、それ以上を希望される方には、入って頂いています。	入浴は2日に1回で、13時から16時の間で利用者一人ひとりの希望に応じて入浴順や湯加減に配慮し、好みのシャンプーや入浴剤、季節の柚子湯などで入浴を楽しめるよう工夫をしている。利用者の体調により、車椅子を利用したシャワー浴や清拭、足浴等の支援をしている。入浴をしたくない利用者には時間の変更や職員の交代、言葉かけの工夫をするなど、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝付きが悪い時には、ホールのソファで眠って頂くこともある。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手芸の好きな方は、自宅から一式持って来ていただいて、時々はお部屋で端切れを並べておられる。	テレビ視聴、雑誌や絵本を読む、音楽を聴く、発生練習、ピアノの生演奏での合唱、折り紙、ぬり絵、しりとり、一日3回のピアノ演奏によるラジオ体操、口腔体操、プランターの花の水やり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、布団干し、居室の掃除、玄関やホールの掃除、モップ掛け、絵本を読む、皮むき(栗、蒭など)、下ごしらえ、盆拭き、台拭き、食器洗い、お茶のバック詰め、干し柿づくり、栗拾い、おやつづくり、散歩、誕生日会など、利用者一人ひとりのできることを活かし、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとと気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎週(日)のドライブが楽しみになっている。	周辺の散歩、自宅周辺のドライブ、管理者と一緒に市役所、郵便局、地域包括支援センターなどに出かけたり、御大師参り、大村神社参り、神社の秋祭り、季節の花見(桜、菜の花、紫陽花、ひまわり、コスモス、紅葉など)、日曜日毎のドライブ(山口宇部空港、仁保の道の駅、阿知須の道の駅、秋穂の海、美東、周防大橋、小野湖、両足寺、長沢の池、セミナーパークなど)、職員宅での柿摘み、栗拾い、金柑、蒭採りなどの他、家族の協力を得ての買い物、外食、墓参り、法事への出席、一時帰宅など、戸外に出かけられるよう支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御希望の方には、現金を持って頂いています。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	されています。電話の取り次ぎ暑中見舞い年賀状も書いて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外の花壇には職員の好意で花が絶えない。建物内も季節季節の花が生けてある。	玄関からリビングへと続く共用空間は天井が高く、海側の掃き出し窓からの陽ざしで明るく、観葉植物や大きなクリスマスツリーで心和める空間となっている。壁面には、利用者の写真が飾っており、ホワイトボードには献立が書いてある。台所は対面式で、食器の音や料理の匂いがして、生活感を感じることができる。リビングには畳の間がある他、大きなソファを配置し、利用者は思い思いの場所でゆったりとくつろいでいる。温度や湿度、換気に注意し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓と別に、テレビ前ソファ、窓際ソファが準備してあり気ままに利用しておられる。スナップ写真をあちこちに貼っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火の気以外の何かを持ち込んで下さるようにしている。誕生日には、日頃の写真を色々貼った色紙を作ってお部屋に飾るようにしている。	ベッドや寝具、箆筒、衣裳ケース、三段ボックス、テレビ、時計、化粧品、雑誌、机、椅子など、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、本人や家族の写真、カレンダー、自作の猫の絵や手作り作品、誕生日の祝いの飾りなどを飾って、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床は全てクッション・フロアとしている。ほぼ全周に手摺を設置している。		

2. 目標達成計画

事業所名 海に見えるグループホームしおさい

作成日: 令和 4年 10月 5日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	運営推進会議のメンバーは、地域包括センターか高齢福祉課の職員と地域の方々のみ。	入居者のご家族に参加を。	運営推進会議の紹介と参加の案内文を送る。	1年間
2	全般	食事などの時間を決めているが、遅れないように・・・と次第に早くなっており、入居者を急がす素地を作っているのではないか。	ゆっくりゆったりと時間を過ごせるように。職員が入居者を急がすことのないように。	遅くなくても問題はなく、退社時間になれば、途中であっても、退社して構わなく、次の勤務が継続してゆくようにする。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。